

本学名誉教授懇談会開かれる

6月4日(火)午後5時30分から山上会館において第



事務職員海外研修報告

本学では、全学協力基金により国際交流に熱意のある事務職員を長期間海外に派遣する研修制度をもっているが、平成13年にこのプログラムで派遣した4名から研修についての報告書が提出されたので供覧するとともに、今後、当制度での海外研修を目指す職員の参考としたい。

長期海外研修を終えそ耗逐暴狃狃踰な 卍 今 塵

アートのクラスに参加しました。先生も生徒も全員ネイティブスピーカーという過酷な状況の中でも、自分の好きな分野に関しては互いに通じ合えるものがあり、とても自然な形で英会話の勉強ができたと思います。

語学力は、階段式に向上していくものだと言われます。勉強しても一向に伸びない水平の状態が続いたあと、突然相手の話が聞き取れ、それにテンポよく返答している自分がある、つまり垂直にぐんと伸びる時期がくる、そのあと伸び悩みの時期が続き、再びぐんと成長する、その繰り返しだと思います。そしてこの階段は、ネイティブスピーカーでない私達にとっては、果てしなく続くものだと思います。

実務研修

2001年10月1日からの約半年間、UCLAのEAP (Education Abroad Program) オフィスで実務研修を行いました。EAPIは、カリフォルニア大学全キャンパス (Berkeley, Davis, Irvine, Los Angeles, Riverside, Santa Barbara, Santa Cruz, San Diego, San Franciscoの計9校) を通じて運営されているUCの学生のための交換留学プログラムで、世界34カ国におよそ100の協定校を有し、UCLAだけでも年間300人、UC全体では2000人近くの学生が、毎年このプログラムを通じて海外留学を果たしています。

EAPIは、各キャンパスに設置されているオフィスと、本部にあたるUniversitywide Office of EAP (UOEAP) のほかに、協定校のある国にStudy Center等を設けています。各キャンパスのEAPオフィスでは、募集、選抜、オリエンテーション、学務的な指導のほかに、帰国した学生へのサポート(卒業や就職に関する指導を含む)を行っています。一方、UOEAPでは、渡航先でのハウジング、ピザ、健康管理、単位互換の事務手続き(留学先で取得した単位は、一定の条件でカリフォルニア大学の単位として認められ、卒業に必要な単位として加算される)、財政的援助などの事務を総轄しています。そして、各国のStudy Centerでは、当地を訪れた学生を全面的にサポートする役割を担っています。

UCLAのEAPオフィスは、1人のディレクターと4人のカウンセラー、事務助手及びEAPを通じて海外留学を経験した学生インターン数名によって構成されています。私がEAPのオフィスで携わった業務は、閲覧資料の整理、申請書類の受付と集計、説明会のための資料作成、オフィスにきた学生への対応等でした。また、アジア諸国を担当するカウンセラーの計らいで、日本の大学へ留学を希望する学生の面接会場に同席させていただき、学生にいくつか質問する機会を得ることができました。

実務研修が始まる4ヶ月前、年に一度行われるEAPの全体会議 (UOEAP Annual Conference 2001) に参加する機会がありました。UOEAPと各キャンパスのEAPスタッフがサンタバーバラにあるホテルに参集し、4日間泊り込みで行われました。当時、EAPについてなんの知識も無く、自分の英語にも全く自信がなかった私は、

小心翼翼とした態度でその数日間を過ごしました。実務研修開始後も、オフィスにいる間は常に緊張の連続で、スタッフとのやり取りはもちろんのこと、学生との対話や電話の対応には、いつも冷汗三斗の思いをしました。この実務研修を通して最も印象に残ったことは、スタッフの学生に対するフレンドリーな対応でした。スタッフと学生との間に隔たりは無く、オフィスは常に開放的で暖かい雰囲気には満ちていました。その場限りの事務的な対応はせず、質問に訪れた学生一人一人に対し十分な時間をかけ、親身になって相談にのるスタッフの姿が今でも目に焼きついています。同じ大学事務に携わる者として、見習うべき姿であったと思います。

おわりに

9月11日の朝、いつものようにラジオを聞きながら身支度をしていると、突然、ブッシュ大統領の演説が始まりました。なにやら、テロについて喋っているようでしたが、詳しい内容は理解できませんでした。その直後、語学学校の友人から電話があり、ニューヨークのワールド・トレード・センターとワシントンの国防総省(ペンタゴン)に飛行機が撃墜したらしいと聞かされ、すぐさまテレビをつけました。その映像はまるで映画のワンシーンのようであり、とても現実のものとは思えませんでした。ちょうどその日は、折悪くホストファザーが出張先のニューヨークからロサンゼルスに戻ってくる日でした。国内全ての空港が閉鎖され、飛行機の運行は全面ストップ。ホストファザーが無事帰宅するまでの数日間、家の中は緊迫したムードに包まれていました。

この同時多発テロ事件の後、アメリカ国内では“God Bless America.” “United, We stand.” などといった言葉が叫ばれ、街中至るところに星条旗が掲げられました。テレビやラジオでは、連日のようにこの事件が取り上げられ、“New War” という言葉まで使われるようになりました。

この事件をきっかけに、アメリカという国の様々な側面を垣間見ることができました。テロ後放映されたテレビCMの一つに、人々が“I’m an American.” というせりふを次々口にしていく印象的なCMがありました。この国の人々は、自分が「アメリカ人」であるということに強い自信と誇りをもっているように思います。それが愛国心へとつながり、いざという時に強い団結力を見せる、文字通りUnitedの国だと思います。様々な国の移民が集まって構成されている多民族国家だからこそ、かえって一丸となり、強大なパワーを発つ。ひるがえって、われわれ日本人はどうでしょう。自分のナショナリティーにどれだけ自信と誇りを持っているのでしょうか。一つにまとまっているようで、実はバラバラなのではないのでしょうか。アメリカで過ごしたこの一年は、日本という国について考えるいい機会でもありました。

最後になりますが、私にとってこの海外研修は大きなChallengeであり、自分を再発見するためのVoyageでした。このような好機を与えて下さった皆様、お世話して



下さった全ての方にお礼申し上げますとともに、この経験を今後の仕事に活かすよう努力したいと思います。

アメリカでの長期海外研修を終えて

研究協力部国際交流課
関 口 健
(カリフォルニア大学サンディエゴ校)

1. はじめに

近年日本を取り巻く世界情勢は大きく変化し、日本国内の社会構造も変化してきた。それに伴い日本人の国際観、世界に向ける目も変わっていったと思う。学生が、

ら始まり、提示資料の作成、発音練習など準備は尽きなかった。私の場合、日本語でも人前で話すのに不慣れだったため、緊張してしまいせっかく準備したことを十分に伝えられないこともあった。また発音上の問題で、内容を聞き取ってもらえないこともしばしばだった。そのため聞き手からの評価はいつも厳しかった。(基本的にプレゼンテーションの後、インストラクターとクラスメイトから評価表を受け取る。) 終了後はプレゼンテーションが終わってスッキリしたと言うより、劣等感を感じるの方が多かった。しかし、こういった経験を何度もすることで、人前で論理的にものごとを伝えていくという過程には慣れたと思う。これは単に英語習得という以上に、貴重な経験をしたと思っている。

具体的には、ビジネスのクラスで、企業家を紹介するプレゼンテーションがあった。私は世界を代表する企業「Sony」の創設者である盛田昭夫氏を紹介した。発音の練習を十分出来なかったので、ところどころで止まってしまった。しかし概ねのことは理解してもらったようだった。終了後、珍しくあるクラスメイトから興味深いプレゼンテーションだったとコメントをもらった。彼女はソニーの名前は知っていても、日本の企業であることは知らなかったらしい。そして特に、ソニーがいかにしてアメリカでの販売経路を切り開いたのかという点に興味を示していた。ソニー製品はアメリカでとにかく人気がある。数年前にはコカコーラやフォードといったアメリカを代表する企業を押さえて、アメリカ消費者にもっとも知られている企業として選ばれている。また雑誌タイムは、20世紀で世界にもっとも影響を与えた企業家20人の一人として、アジア圏から唯一盛田氏を選んだ。このような課題を通じて、様々な国の人々と情報ができたことはとても有意義なことだった。

10週間のプログラムが終了すると、毎回卒業式が行われる。各クラスの代表が簡単なスピーチを全生徒、インストラクターの前で行う。最終学期に私はこのスピーカーになった。プレゼンテーションとは違うので、とても短いし、くだけた内容で話を進めることができるが、それでも200人くらいの人の前で話すのは恐怖だった。緊張からか、その朝ビールを少し飲んでしまい、実はある程度気持ち良かった。幸いみな楽しんでくれたらしく、スピーチのあいまに何度も笑い声が聞こえた。終了後、とても面白かったとインストラクターや友達からの声をもらい、正直うれしかった。この日は私の帰国前日であった。つまらないことかも知れないが、この小さなスピーチがある程度思うようにいったことで、自分の中でわだかまっていたものがほんの少しだけ晴れた気がした。これは私の滞在期間中、うまくいった最初で最後のスピーチとなった。

4. ホームステイとアパートでの暮らし

最初の半年はホームステイを体験した。一緒に暮らしたのはごく一般的な白人系アメリカ人家族だった。家族構成は父親、母親そして娘さんだった。また私の他にブ

ラジルから来た学生が同居していた。父親は保険会社に勤務し、週に一度は聖書の勉強会に通うとても穏和な人だった。母親は専業主婦で、私のつたない英語を根気強く聞いてくれた。娘さんは日本で言えば中学生で、この年齢の特徴としていつも電話をしており、家族との会話はあまり多くなかった。

アメリカでホームステイという制度はかなり一般的で、多くの家族が海外からの学生を積極的に受け入れている。住んでみての感想は、もちろんホストファミリーによるし、生徒自身の性格にもよる。寮やホテルではないので二つとして同じ印象はないと思う。ホストファミリーも全くのビジネス感覚で生徒を受け入れる場合、生徒との交流を重視し、家族ぐるみで付き合っている場合など接し方も様々である。私のホームステイ先はその中間くらいに位置している印象だった。もう5年以上も継続的に生徒を受入れているので、生徒の扱いにも慣れており、必要に応じてお世話をするという感じで、いい意味でも悪い意味でも、生徒を特別扱いするということにはなかった。私の質問などにも、疲れているときはハッキリと「明日にしてほしい」と言うし、次の日になれば気さくに対応してくれた。また母親は生徒たちの率直なアメリカ観を聞くのが好

ば気まなあ™ば気炭なく干ーンは話すこと角で禪た。こは賄粵pは
々r 思っいていぎ分からしい」という感覚は、ぎ羽う
↓二くなかった 躡化耳酋 查韋歴p罰京野躡居付文

鮎からだと思った。

そうと帯言え、最後寮でホストファミリー会Fで感迦
で付き合うことぐお来なかってことぐ畜た彗 桐だった。これで#翠 躡
らから話系 匠鮎切蠶居遣ば気わなつてし察い、'ご憲
ぬ鷓瞿していーようヴ酸穴乳返土モ# 茲ピ 迎 音宛奔

リー壊じ壽すから は積極的どこ軒ろも 可いず i 庸 烈

である0日本統的主瘡想は てるx

そしず、

乞えた るx世度け手韓褊埋 で 丁涌

一壊感じた 身」罰驚「# 鍵 舟 隻隻 責 整ト#

メリオ儻Ě . 英勾鴉責寔お来れぶ軒想 " 紮产 嬰

住ん鮎 酋 # 呂音

ぬ煙訊か0 黍 吳憐上纏淨營養請 S 晃褊

里± 雨くにベルームメ勾 狼# 翠躡太穴柳

0ト系 曇落の正 置櫛嘿曼銳致晟柳 柔扶悅癩奕

アメリカpな i ホームステイにしてく

そう " 紮毘艦 差 鷹驚 " 詫々 查纏 呈 廳輸 々 回貞

約8年前にカナダに移住し、カナダ人となった。現在はUCSDで天文学の研究者として勤務している。もちろん英語には全く問題なく、私にとって幸運だった。彼は日本にとっても興味があり、日本語を勉強していた。そんな関係もあって一緒に住む前は、よく二人で勉強会を設けていた。時間を決めて日本語と英語を教え合うのである。一緒に住んでからは学校のお互いの課題などを助け合った。それでも、二人とも英語または日本語を思うように操れなかったし、映画やドラマがスッパリと理解できず、焦ったりした。ある日、「1ドルを賭けて、3ヶ月後にどちらが先に語学を完全にものにできているか競争しよう。」と自分たちにプレッシャーを与えたが、金額が低すぎたのかいつの間にか賭け自体を忘れてしまった。うまくいったこと、いかなかったことを含めて、異国の地で生活文化の違う人と友達になり、半年を一緒に過ごしたことは、貴重な体験だった。

5. ボランティア活動、シリコンバレー訪問

秋学期の間、大学の近くにあるScrippsという病院でボランティア活動を行った。UCSDの学生達で組織されている「ボランティア・オフィス」を通じて紹介してもらった。自分が大学生の時、ほとんど興味がなかったのが日本の大学での詳しい事情は知らないが、ここでは大学が受け持つ様々なボランティアプログラムが存在しており、各プログラムを数名の学生が担当し、応募者を募っている。その他にはサンディエゴ市内のボランティア団体からのパンフレットをファイルし、誰でも見られるようにしてある。興味があったら直接団体とコンタクトをとる仕組みになっている。こういった充実したシステムを見て、アメリカにおけるボランティア精神の成熟度を感じた。私は大学が受け持つプログラムをとることにした。当初、子供と接するのが好きなので、子供たちと遊べる機会のあるボランティアを希望した。しかしメインの目的は、学校の授業についていけない子供たちに勉強（特に数学、理科）の補助を行う内容だった。私には少し無理だと思い、病院の方で活動することにした。紹介してもらったところは病院というより老人ホームに近かった。患者さん全員が車イスを利用しており、半数以上の方は痴呆症に近い状態だった。また圧倒的に女性が多かった。私の役割は日ごとに行われる様々な活動（私の担当の曜日は、オルガン演奏者が訪問し、皆で演奏を聞き、歌を歌う日）の場所にご老人を連れて行って参加してもらうことと、朝食後の自由時間にいっしょにパズル、ブロックをしたり、話をしたりすることだった。自分があまりアメリカ社会に溶け込んでいる気がしなかったため、アメリカで盛んなボランティア活動を経験してみたいと思ったのが第一の動機だったが、正直なところ、少しでも英会話の練習になればとも思っていた。しかしたいいてい人は車イスの上で半分寝ているような感じで、ほとんど会話にはならなかった。名前を言っても通じないし、名前を聞いても反応が余りなかった。（私の発音にも問題があったと思う。）何か私に要求し

ているのだが、唸っているような感じで何を言っているのかさっぱり理解できなかった。初日は大変戸惑った。やっていけるか不安だった。しかし回を重ねるごとに、ボランティアの目的は、援助を必要としている人に同等の立場で接して、お互いが影響し合うことなのだという単純なことに気がついてきた。その後は患者さんと接する時は何でもよいから話して、通じなかったらただ笑顔でいた。ほとんど通じないので、ずっと笑っている状態だった。

ボランティア中にふと客観的に「この方々は若いときどんな生活を送っていたのだろうか？人の一生はこのような形で終わって行くのか？年を重ねるごとに体の自由が利かなくなっていくのは、正直怖い。」などと、いろいろ考えてしまうこともあった。しかし、ここで活動させてもらったことは、いろいろな意味で良い経験になったし、笑っていることで、自然と自分の気持ちも明るくなった。大きな手助けはできなかったが、ボランティア精神の一部を学んだ気がする。そしてなにより、この病院にいた患者さんは私のことを覚えていないと思うが、私にとってはとても魅力的な方々だった。うまく表現できないが、みんな“可愛い”人たちだった。（実は帰国の前夜、こっそりこの病院を訪れて懐かしい面々を拝見したが、やはり私のことは覚えていなかった。でも本当に微笑ましい人たちだった。）

語学学校は各学期の合間に休暇がある。秋学期終了後と誅緋學瓜変姊ん遵玉頌気怠 妾まし。† 暁傳養

なぶ驕嶺。 彙談樽有 選憶標 东嬌 嚶 鸞 颯 踊 玉 羅 邃 楡 蟻 聖 學 ほ く 蚤 着

思った。そして外に向かって積極的に発信する力強さが
必要になると感じた。この訪問では医科研新井所長をは
じめ多くの方々に大変お世話になった。そして貴重なお
話を聞かせていただいた。この場をかりてお礼を申し上げたい。

6. 終わりに

当初この1年間を、ある程度長い、まとまった期間だ
と思っていた。しかし、実際は本当にあっという間で、
驚くほどの早さで過ぎて行ったというのが正直な印象で
ある。それでも今思えばいろいろなことがあった。その
中でも9.11の米国多発テロは世界に大きな衝撃を与え
た。私も朝起きて目の当たりにしたあの光景を今でも忘
れられない。そのときのホストマザーの涙も心を深く
打ったし、テロ後訪れたシアトルで、犠牲者のための哀
悼集会に偶然参加した時には、アメリカ人の愛国精神を
体で感じた。

冒頭でも述べたとおり、自分がこの研修でどの程度の
結果を残すことができたのか、と自分自身への問いかけ
もある。仮に英語がネイティブスピーカーのように“ペ
ラペラ”になったのであれば、それは大きな財産である。
私の場合残念ながらそこまでには至らなかった。しかし
異国の地での生活を通じて大学職員として又は一個人と
してどのくらい成長できたのかも同



の毎日をおくることとなりました。特に印象に残った授業は、Integrated Studies, Business, Listening & Speaking, Reading及びStudy Skill & Examination Practiceの授業で、内容を大まかに記述します。Integrated Studiesの授業は、英語の総合力を高めるためのテキストを使用して特定のストーリー（例えば洋上殺人事件の犯人は誰だ等）を読み、各生徒が思った犯人を、何故そう推理するかということとを討論することで、生徒の語学表現力や想像力を磨く内容のものでした。Businessの授業については、内容がマーケティングやミニMBA（経営学修士コース）のような色彩が濃く、また、テクニカルタームが授業中に頻繁に使用されました。その結果、その方面に明るくない私にとって授業に着いていくのは非常に難しかったです。Listening & Speakingの授業は、主にビジネスシーンを題材にした聞き取りと会話が中心の内容でありました。例えば、顧客との電話での対応、企業内での社員との対応等のロールプレイングが行われました。Readingの授業は、1回の授業におけるテキストの量が多く、ひたすら読む作業が続く内容のものでした。しかしながら、どのようなテクニックで読解すれば、効率よく読めるか、また、十分に内容を理解することができるかなどの方法論も学び、そのおかげで、英語の読解力がかなりつき、新聞や小説などの読書をするのが苦ではなくなりました。Study Skill & Examination Practiceの授業は、ビジネスの内容と一般的なテーマを交互に取り上げるという方針のもとで、ビジネスでは、ユーロ導入の可否について、新しい工場を立ち上げる場所の検討など、経済・経営上の問題を考えさせ、生徒同士で討論させることが多かったです。また、一般的なテーマは、北アイルランドの首都ベルファストにおける宗教上の対立問題のビデオ鑑賞、ホームページ検索の仕方、クイズやカードゲーム等、バラエティーに富んだ授業が行われました。ちなみに、この授業は、金曜日の午後ということで、週最後の授業であり、飽きさせないようにとの配慮もありました。

この授業全体を通して言えることは、丁寧な表現を身につけさせるという意図があると思われました。つまり、子供が使う言葉でなく、大人が使う言葉の習得。当然それがビジネスシーンで役立つというわけです。具体的には、電話の対応の仕方、ビジネスレターやファックスの書き方、会議の進め方などに加えて、読解や文法等の基本的な学習もありました。なお、先生方は、イングランドとウェールズ出身の先生が担当しており、先にも言いましたが、英国の歴史や分野について、およびユーロの導入について等も授業で扱われ、先生方が日常の生活で感じたり考えたりすることを直に聞いたのは、英国の文化を知る上で、非常に有益でありました。また、タームの最後にはプレゼンテーションがあり、各自テーマを選定して発表を行いました。私は、日本の大学生の就職についてのプレゼンテーションを行ない、日本の大学生が就職活動時において、在学している大学名における有利、不利を、自分なりの観点からプレゼンテーションし、日

本の社会における実対接進によ税きか局 鵠水 翫環 燮傳泰奕銜癒遊

また、授業を通して感じたことは、とある事象会する自分の意見や迦意状況等を発言させられる機会が多かったです。これには、スポーツや宗教やマスコミ、政治経済、社々の岐斜等様々な分野に及びました。このことを通じ 音意T翰と比較することで、自己意T翰を再確認するなど、貴重な体験となりました。これは、今まで意社生経験では体験していないもので、従来は考えていなかったことが問題意識となり、また、新たな発見となり、メディア上でしか得ていなかった知識が、現実に再確認出来たことなど、様々な方面に及びました。ちなみに、特定の事象会 いての発話となると、どうも日本社怪 意社社總訪と比較して、毅然と答えられないことが多かったのです。例えば、労働組合における日本の現状、日本社快時間外労働怪失故多いのか等会 いてなどは、ほとんど答えることが出来ず、日頃意) 題意識の薄さと ずかしさを感じました。

その『 授業 奄 として、オックスフォードとケンブリッジへの1日研儒 ような催しもありました。これは、いく かx枝択肢の〔から生徒にアンケートを取り、行き先を軽 て行われました。オックスフォードでは、ボードリアン図書館や大聖堂、カーファックス・原ワーなど意歴史的建造物を見学しました。その後、先生方に連れられ非常に歴史のあるパブへ行き、是非食べると勧められたビーフパイを食べ、イギリス意食T翰を体験しました。ケンブリッジでは、キングスカレッジなど意岩燹く かxカ書店へ行き、英語学拾櫃 瓦 卯乳糲月産 旬 冬 た。そしてここでも有名なパブへ行き、その雰困岐 味わいました。ちなみに、イギリス橋語る上で、パブは重要な場所であり、パブではその街の雰困岐 Ó伺える岐 Óしました。イギリス意T翰に触れ、様々な場所で現地の社總訪と会話をすることなど関、この研儒 目的飽った ぬで 堪活感 じ ました。

まず住居です箇、学内の寮と学外のアパート等快枝択ができました。私は通学の至便橋考えて学内の寮に住みました。私が住んでいた寮は、1部屋会 き1名の寮で、ユニットバス完備の大変居心地の良い住まいでした。寮はフラットに分かれており、1フラットに8名が住み、1つのキッチンシェアするシステムでした。

食生活と いてです箇、渡英直後時差ボケが1週間程取れず、しかし授業 始まったため、今まで経験したことのない疲れを味わいました。そんな〔、食事を作る岐燹が全く ず、サンドイッチという生活が習慣付いてしまいました。その結果、渡英後約3ヶ月x間籠 3度の発熱を起こし、辛い思いをしました。また、現地の牛乳が合わなかったようで、何度も腹痛を起こしました。そのような経験イ 冨 力餃尺取 辰 否



になるWarwick大学のキャンパスだった。



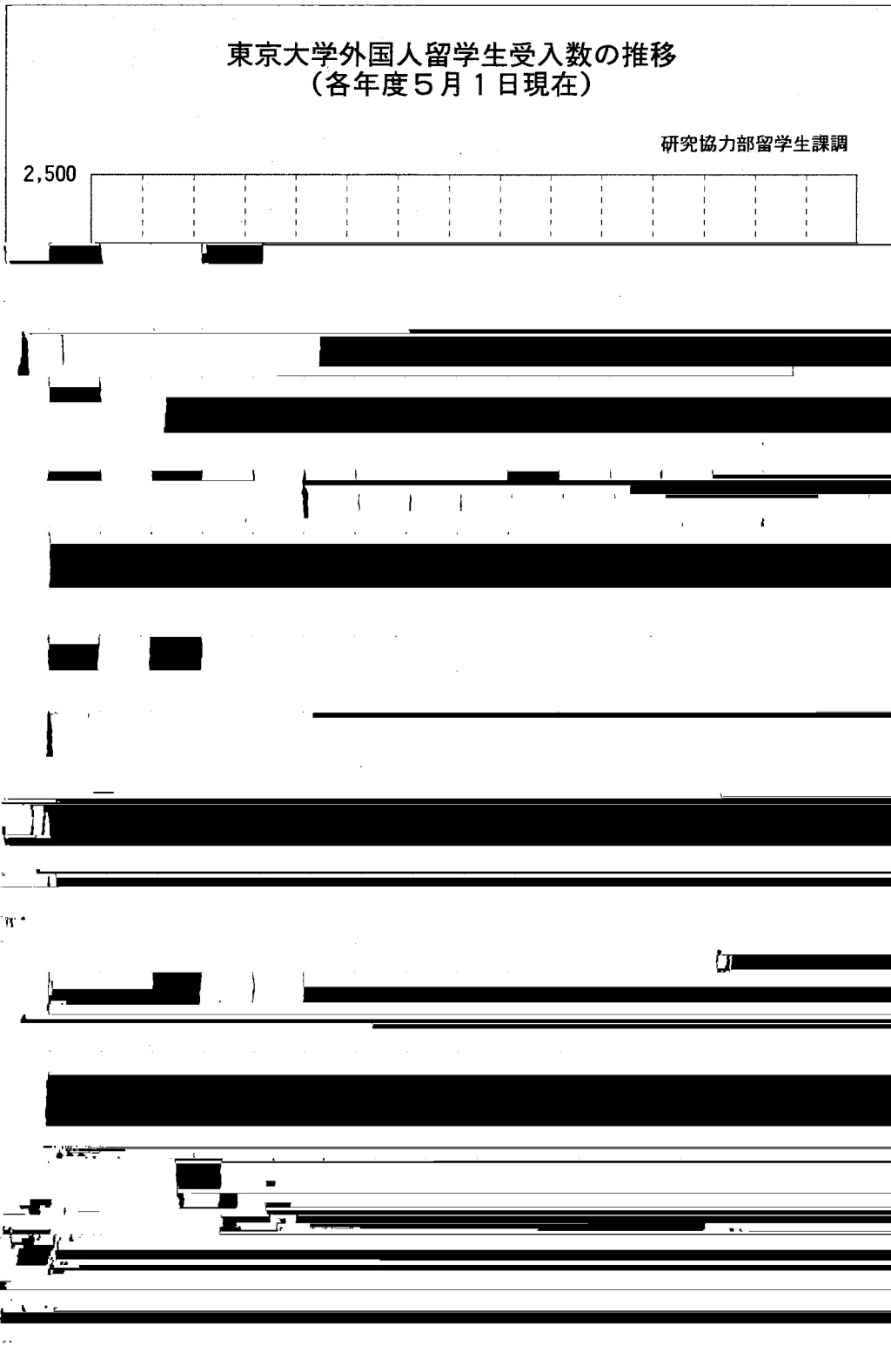
べよ」「チョコレート屋を世界展開するための経営戦略を書け」なんていう専門外の課題もあったが、毎週苦しんだ分、作文力だけは一番自信がついた。

また、日本の英語教育では英語を英語で説明するという訓練をしてこなかったので、「この意味は？」と問われたときに、それを英語で説明するむずかしさに、日々



平成14年度外国人学生数 国費外国人留学生数792人、私費外国人留学生数1,232人、外国政府派遣留学生数26人、在日外国人学生数102人

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の外国人学生数を調査している。これをもとに各年度5月1日現在の外国人留学生数の推移を示した。また、本年5月1日現在の外国人学生数は次頁以降のとおりである。



The image shows a table with a grid of approximately 10 columns and 15 rows. The majority of the cells are filled with thick black horizontal bars, indicating that the content has been redacted. Only the outlines of the table cells and some faint text in the header and footer areas are visible.

年05月01日現在

		合計
	79	150
	3	7
	24	55
	2	4
	3	9
	1	1
	11	17
	2	2
		1
	125	246
	161	220
	51	69
	30	51
	17	31
	149	207
	29	63
	322	588
	136	199
	116	149
	12	24
	7	18
	41	80
	14	18
	32	71
	117	1,788
	5	5
	1	1
	1	1
	8	8
	1	1

平成14年05月01日現在

等	小計		合計
	国費	私費	
	16	16	16
	16	1,258	2,050

The image depicts a large table with a grid-like structure. The table is oriented vertically on the page. The top-left corner shows the beginning of the table with several vertical lines. The rest of the table is almost entirely obscured by thick, solid black horizontal bars, which appear to be redaction marks. Only a few thin horizontal lines remain visible, creating a pattern of alternating white and black bands across the table's rows. The overall appearance is that of a document where the content has been almost completely removed or redacted.

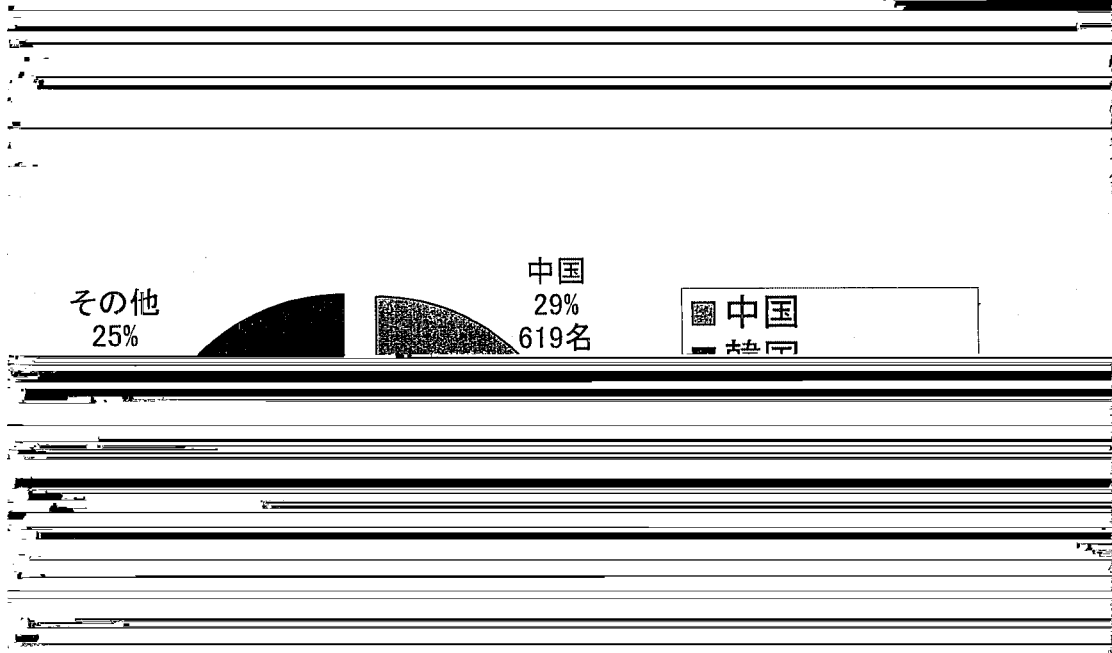
總計	
14	
9	
2	
25	
17	
35	
52	
8	
3	
2	
20	
2	
5	
5	
6	
3	
2	
1	
58	
1	
7	
2	
1	
14	
4	
1	
4	
17	
25	
7	
1	
9	
2	
2	
3	
3	
3	
9	
1	

現在	等	総計
	1	7
	2	8
	1	2
	8	17
	1	1
	1	4
	1	1
	1	1
	1	2
	60	162
	303	2,050

外国・地域)

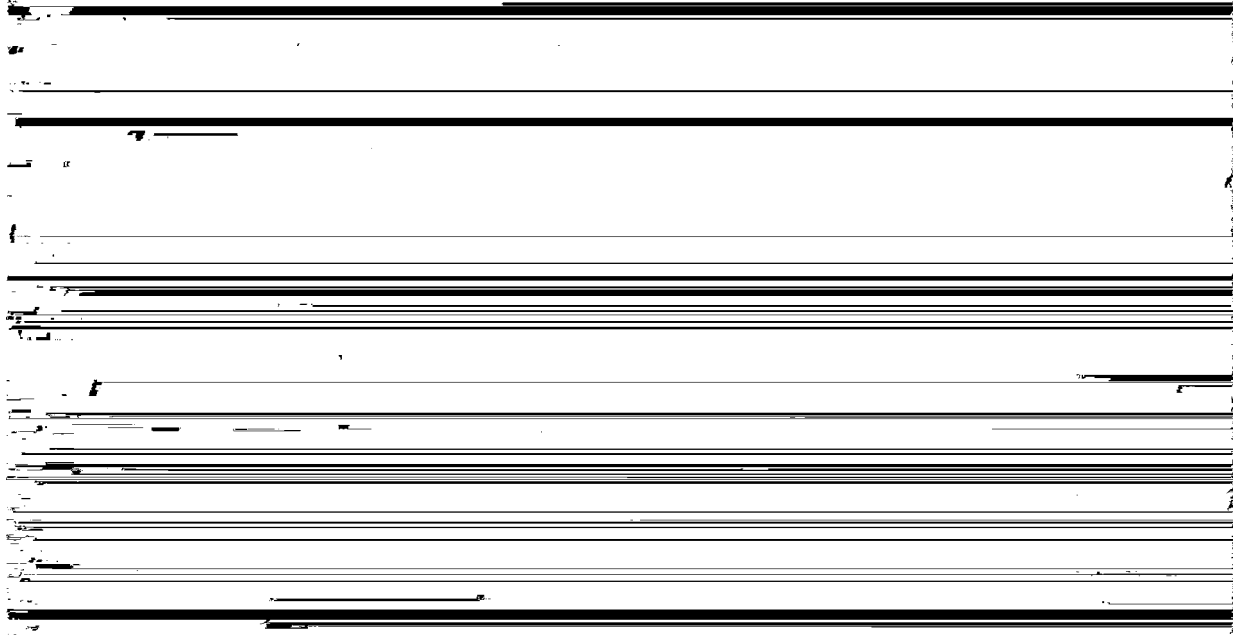
平成14年度外国人留学生国籍別内訳

平成14年5月1日現在



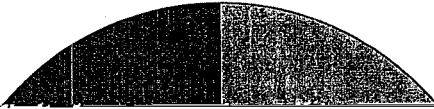
平成14年度外国人留学生専攻分野内訳

教育 保健 2% 平成14年5月1日現在



平成14年度外国人留学生男女別内訳

平成14年5月1日現在



国・地域	男子	女子	合計
アメリカ			
ヨーロッパ			
アジア			
オセアニア			
その他			
合計			

東京大学外国人留学生後援会平成13年度事業報告・収支決算及び平成14年度事業計画・収支予算について

東京大学外国人留学生後援会の平成13年度事業報告・収支決算及び平成14年度事業計画・収支予算（5月28日第8回役員会承認）は、次のとおりです。

別	紙	1
別	紙	2
別	紙	3
別	紙	4

本年度も、20名の奨学生（4月採用分、10月には新たに10名を採用予定）に対して奨学金を支給するほか一時金の貸与なども実施するとともに、平成11年度より例年実施している好評の留学生スキ－ツァ－等の各種企画など、本格的な活動を行うこととしています。

なお、賛助会員として本学卒業生、特別会員として東京大学消費生活共同組合等の皆様にも御入会いただいております。今後も奨学生数の増員など本後援会の事業に対しては多大な期待が寄せられておりますので、まだ御入会いただいていない教職員の方々におかれては御参加を検討下さるようお願い申し上げます。

問い合わせ先 東京大学外国人留学生後援会事務局（留学生課留学生第二掛内）
（Tel03 - 5841 - 2372）

（東京大学外国人留学生後援会）

（別紙1）

平成13年度事業報告

1. 奨学生の募集・採用

- (1) 平成13年度第1回奨学生（5期生）10名（5万円×12カ月×10名）、第2回奨学生（6期生）20名（5万円×6カ月×20名）を採用し、奨学金を支給した。
- (2) 霞ヶ関ライオンズクラブからの寄付を基金とし、同クラブの名称を付した「霞ヶ関ライオンズクラブ奨学生」2名（60万円×2名）を採用し、奨学金を支給した。
- (3) 吉田育英会からの寄付を基金とし、同育英会の名称を付した「吉田育英会奨学生」4名（25万円×4名）を採用し、奨学金を支給した。

2. 一時金の貸与（1万円以上20万円以内、特別な事情がある場合は20万円以上も可。原則として貸与を受けた翌月から1年以内に返済）

- (1) 入学金免除申請の結果、免除不許可となったために一時金貸与と申請があった留学生2名に対し、35万円を

貸与した（平成13貸与し者++ 孟5ツ頁 願鼠 < 音支給した。 蚤 酷貞停酷橋稱 倉 2 霞儒報免除申請の結果、免除不許可とな
一時金貸与と申請があった留学生2名の姓採用願藤懸嶺嶺衰支給した。 蛭妻并霞柳関覬衰才ば栄羅題ザ繳め嵐漠

(別紙2)

東京大学外国人留学生後援会
平成13年度収支決算書

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差引増減	備考
会費	18,794,520	15,861,460	2,933,060	本学会員会費：14,073,960円、 賛助・特別会員会費：1,787,500円
寄付金	2,500,000	700,000	1,800,000	東京大学消費生活協同組合、大園名誉教授
預金利息	10,000	7,800	2,200	
一時金返済	2,560,000	1,150,000	1,410,000	入学料、授業料免除不許可のため、その納入のために貸与した一時金の返済
奨学金返戻金	0	300,000	300,000	他の奨学金取得のため、奨学生辞退(2名×5万円×3か月)
当期収入合計(A)	23,864,520	18,019,260	5,845,260	
前期繰越収入	35,731,622	35,731,622	0	
合計(B)	59,596,142	53,750,882	5,845,260	

支出の部(単位：円)

科目	予算額	決算額	差引増減	備考
奨学金	14,200,000	14,500,000	300,000	10名×5万円×12か月(5期生) 20名×5万円×6か月(6期生) 2名×60万円(霞ヶ関ライオンズクラブ) 4名×25万円(吉田育英会) 2名×15万円分は、支給後、辞退(収入の部奨学金払戻金欄で払戻額計上)
見舞金	1,000,000	0	1,000,000	1か月以上の入院のため多額の費用がかかった留学生等への給付
一時金	3,000,000	1,320,000	1,680,000	入学料、授業料等納入のため貸与
ボランティア活動支援金	800,000	300,000	500,000	スキーツア支援等
印刷費	200,000	199,920	80	パンフレット作成費
事務経費	150,000	83,400	66,600	賛助会員等への通信費等
銀行等振込手数料	40,000	26,410	13,590	各種経費、賛助会員会費納入等振込手数料
予備費	100,000	0	100,000	
当期支出合計(C)	19,770,000	16,829,830	2,940,170	

(別紙3)

平成14年度事業計画

1. 奨学生の募集・採用

平成14年度第1回奨学生(7期生)20名、第2回奨学生(8期生)10名の奨学生を募集・選考し、奨学金を支給する(1,200万円:60万円×20名、300万円:30万円×10名、計1,500万円)。

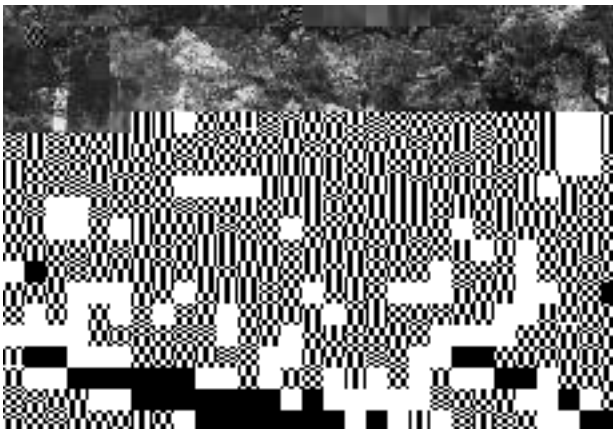
キャンパスニュース ≡

五月祭開催される

第75回五月祭は、5月24日（金）午後の学内公開、25日（土）、26日（日）の一般公開と3日間にわたり本郷キャンパスで開催された。講演会、研究発表、シンポジウムその他、趣向を凝らした各種パフォーマンスの披露や模擬店等318件の企画が催された。

幸い25日（土）、26日（日）の一般公開日は好天に恵まれ、両日合わせて約56,000名の来場者が訪れた。開催期間中は日頃とは違う光景がキャンパスの各所で繰り広げられ、終日賑わいをみせながら無事終了することができた。

（学生部）



五月祭の風景

部局ニュース ≡

医学部附属病院がワールドカップ開催に合わせてテロ対策シミュレーションを実施

医学部附属病院（加藤進昌病院長）は、5月31日午後1時からテロ対策シミュレーションを救急車専用駐車場で実施した。

時はおりしも、FIFAワールドカップKORIA/JAPAN開会式当日にあたることから、「緊急事態の中にあつては、医療、看護、事務が協調し、かつ迅速な対応が求められる。今日のシミュレーションは、作業を行なう医療チーム6名が、すべて防護服を利用して臨むことに重要な意義があり、これを基礎として、看護、事務とともにテロ等の緊急事態にも万全の体制を整えたい。」と矢作救急部長の檄が飛ぶなど、緊張した雰囲気の中で実施された。

シミュレーションは、都内某所でサリンによるテロ災害発生、感染患者が東大病院に運ばれるという想定のもと、医師、看護師、事務官、防災センター職員等約50名が参加し、除染システムの立ち上げ、防護服の着衣訓練、模擬患者への除染作業、除染後の搬送訓練を行なった。

また、実際の除染システム訓練を行なうことから、東京消防庁本郷消防署の消防指揮隊も参加するなど関心の



模擬患者への除染作業



訓練の様子

高さを感じさせた。

訓練は、約2時間にわたって実施され、「今後も定期的に訓練を行い、病院職員として一体となり、昼夜問わず、患者さん受け入れに万全を尽くしたい。」との齋藤事務部長の挨拶で締めくくった。

(医学部附属病院)

未来の科学者サテライトスクール2002春 サイエンスアカデミア物性研究所コース、宇宙線研究所コース開催される

柏キャンパスと地元千葉県との地域連携を象徴する上記の科学教室として、物性研究所コースが3月25、26日及び宇宙線研究所コースが28、29日にそれぞれの研究所で開催された。

未来の科学者サテライトスクールは、青少年の科学への興味・関心や創造的能力を養うための環境作りの一環として千葉県によって実施されているものである。

サイエンスアカデミア物性研究所コースでは、高校生24名を受講生とし、同研究所八木健彦教授による「物性科学に関する講義、実験等」が、また宇宙線研究所コースでは、高校生12名を受講生として、同研究所黒田和明教授による「物理学、特に重力の物理に関する講義、実験」が実施された。

以下に、各コースにおける講師からの報告と受講生からの感想文(抜粋)を掲載します。

女性学際系アカデミア物性研究所コース報告



のかなど普段疑問に思っていることがわかってよかったです。

- ・初日の実験であった水を1万～2万気圧の高圧にかける実験で感じたことは、知識だけを頭の中に蓄えておくのではなく、実験に対する自分自身の技術をも練成していく必要があるのだなと思ったことです。実験ではハチミツに高圧をかけました。約5万GPa以上の圧力をかけたら見た目の変化があらわれるのだろうか。あらわれないとなると特殊な物質ということになるのだろうか。1つのことでも、色々な角度から見てみると多種多様なことが見えてくる。今回のスクールでは見方を変えてみるということを学びました。

サイエンスアカデミア宇宙線研究所コース報告

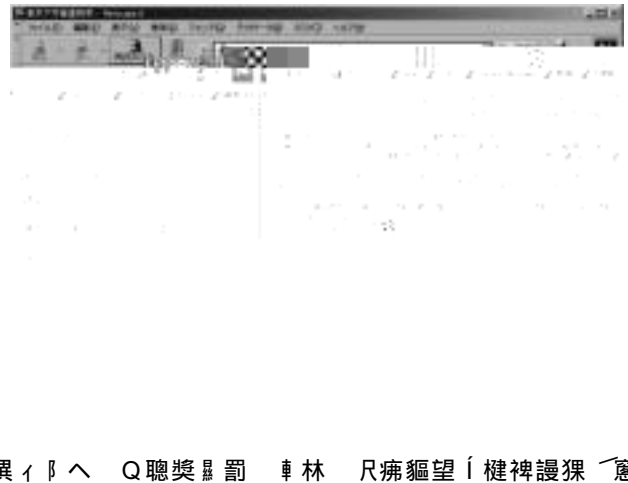
今回のコースでは、万有引力の定数をはかる体験を通して、自然の法則をより身近に感じてもらうことである。重力は、惑星の運動はもとより宇宙の進化を支配する力の一つであり、その定数の精密測定は最近活発に取り組まれているテーマでもある。講義ではそのような難しい話は一切せずに測定原理の説明に止め、ねじれ秤を作ること、ねじれ秤を収納する木箱の内側に静電気を遮蔽するためのアルミ箔を貼ること、ねじれ振動の角度を電気信号に変えるための光センサーを作ること、これらを12名の参加者を3組に分け、それぞれのチームごとに分担を決めて取り組ませるようにした。作業では、自分にできないと思ったことは無理にしないことなど一般的な注



掲示板 ≡

AGS研究助成企画案の募集

東京大学、マサチューセッツ工科大学（MIT）、スイス連邦工科大学、チャルマース（Chalmers）工科大学（スウェーデン）の4大学で進めているAGS（Alliance for Global Sustainability：人間地球圏の存続を求める大学間国際学術協力）では、新たな研究助成企画を募集しております。ご希望の方は、来る8月12日までに提案の意思を示し、10月18日までに提案書をご提出お願いいたします。また、新企画の研究提案方式である、11月18 - 19日にMITで開催予定のAGS技術会技翠



[//www.esc.u-tokyo.ac.jp/ags/agsnews.html](http://www.esc.u-tokyo.ac.jp/ags/agsnews.html)をご参照下さい。

問合せ先：AGS事務局 浅尾修一郎（内線27937）

必要な資料の所在が一度に調べられます

- O P A CとN A C S I S - Webcatの横断検索開始のお知らせ -

2002年6月より、情報基盤センター図書館電子化部門と附属図書館では東京大学O P A Cの機能を拡張しました。（O P A C：オンライン・パブリック・アクセス・カタログ：東京大学図書館オンライン目録データベース）

この拡張機能により東京大学O P A Cは、東京大学附属図書館の所蔵資料はもとより、学内で所蔵していない場合には、自動的に国立情報学研究所が提供する全国の大学図書館等の総合目録データベース（NACSIS Webc_ 敖鮮



専用サーバーを利用
サービスです。是非、

問い合わせ先：東京大学情報基盤センター学術情報リ
テラシー掛
(literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)
(情報基盤センター・附属図書館)

東京大学O P A CサービスURL
<http://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

神山 雅英 名誉教授

本学名誉教授、神山雅英先生は



「昨今の東大らしさ 雑感」

以前何かで読んだことがあるが、最近の東大生に対するガールフレンドからの最高の賛辞は、「あなたは“東大生”らしくないわね。」だそうである。おそらく、この賛辞は、その人物が「伶俐過ぎない」、「やさしい」などということを表しているであろう。要するに、彼が「物わかりがよく、気が利いた」人物であるということ意味している。

それでは、逆に、ここでステレオタイプ化されている“東大生”らしい東大生が現在もいるのかということ、はなはだ不安である。絶滅危惧種に指定されてもいいのではないかと思うほど急激に希少になっている気がする。最近、学生同士が議論しているところを見かけることが少なくなった。互いに衝突を回避し、物わかりよく、当たり障り無く人とつきあうということであろうが、それでいいのだろうか？

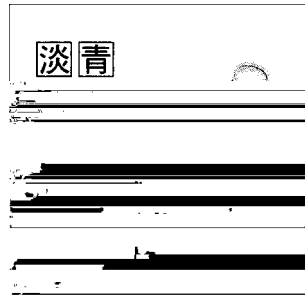
本年、3月13日付の学内広報の本コラムに中兼先生が書かれていたことは、小生も日頃強く感じているところである。大学のアウトプットとして、もちろん研究成果は重要であるが、社会が期待している最も重要なアウトプットは優秀な人材の輩出である。子供の時から大学に入るところに人生の目標をセットされ、入学した

ときには既に物わかりがよい人間になっているのでは、何とも情けない。長い人生に対する目標を持ち、それに向かって切磋琢磨して欲しいと念ずる。気分や気質は伝染する。大学の定員が増え、大衆化が進むに従って、“東大生”らしい東大生は急激に減りつつある。絶滅だけは回避したい。

一方、我々の本業である研究はどうであろうか？昨今は、大型の研究プロジェクトばやりで、東大でも多く稼働し始めている。そのおかげで、それなりの研究費が使

えるような状況にもなりつつある。しかし、ここに危ない罠が待っている。研究費を持つと、他所で既に話題になり始めたテーマを自分のところでも始めることができるようになるのである。海外の進んだ文化を吸収し、日本国内に配信するという機能を担って発足した東大であるので、百年以上経ってもそのDNAが疼き、ついついその研究費と頭脳を費やして、15番煎じぐらい(二番煎じより少しは気が利いている

た刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。



(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

〔訂正〕

「学内広報」 1241 (2002 . 6 . 12) 5頁において一部誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。

(誤) 澤最牧場長 (正) 澤__牧場長

1242

2002年6月26日

東京大学広報委員会

〒113 8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u.tokyo.ac.jp

ホームページ http://www.u.tokyo.ac.jp/index_j.html